

こだま

福岡小児歯科集談会会報

第 43 号
発行 令和7年3月31日
発行者 会長 二木 昌人
福岡市中央区薬院4-1-26-2F
ふたつき子ども歯科
TEL:092-523-7560
E-mail:fc-dental@son.bbq.jp

巻 頭 言

会長挨拶

福岡小児歯科集談会 会長 二木 昌人

40年以上の歴史を持つ福岡小児歯科集談会ですが、令和7年3月末にて閉会となり、会誌「こだま」も最終号となります。閉会にあたっては、昨年12月にお知らせ致しましたような経緯があります。

私も長年会長を任されておりましたが、会の活動の継続的発展に至らず、世代交代もままならなかったのは、力不足で残念に感じます。

自身の小児歯科の立ち位置は、かつてメインであったう蝕の治療と予防はもちろん、成人前までの患者さんに包括的な口腔領域のアプローチを行うことでした。いわゆる健全な口腔育成をサポートする目的で、歯科医としての各論があった駅です。

他の専門分野に比較して歴史が浅い小児歯科ですが、人生の成長発達期をカバーして、成人以降の健康の基本をつくる重要な役割があると思います。今後は、分かりやすい歯、歯周組織、歯列咬合などの形態から、評価と治療による回復が難しい、機能の分野により踏み込んでいく時代と考えます。

現在の次世代小児歯科界の現状や、今後どこに向かおうとしているか、最近、私自身若干情報に疎くなっている気がします。それゆえ次世代の先生方には、いわゆる口腔医学という観点から、他の専門分野とも連携しながら小児歯科を発展させて頂きたいと願っています。

また、有志の先生方で、新世代のスタディグループが立ち上がることを期待致します。



令和6年度

福岡小児歯科集談会 総会

日時：令和6年4月24日(水) 19時～

場所：福岡県歯科医師会館

会長挨拶の後、議長選出が行われ、以下の議事について報告及び説明がなされた。

(議事)

*令和5年度事業報告(令和5年4月～令和6年3月) 二木会長

令和5年 4月 総会

総会後講演会(歯科医師対象)：安永 敦先生

アライナー矯正歯科治療の考え方

— 知っておいてほしいこと —

7月 講演会(歯科医師・スタッフ対象)：大野 秀夫先生・大野 康子先生

子どものお口の機能支援

—小児口腔機能発達不全症の対応—

12月 講演会：岡 暁子先生

こどもまんなかの病—診連携に必要なことを考える

令和6年 1月 講演会：安藤 昌俊先生

乳幼児・小児における齲蝕予防と管理

またアメリカでの最近の話題

3月 会報「こたま42号」発行

*令和5年度会計報告 安藤先生(会計監査：勝俣先生)

*令和6年度事業計画(二木会長)

令和6年 4月 総会および講演会(歯科医師対象)

福本 敏先生：小児歯科の最近のトピックスと

九州大学病院における診療体制について

5月以降 2～3の講演会を検討中

福岡小児歯科集談会のありかた・運営に関する会合予定

令和7年 3月 会報「こたま43号」発行

*令和6年度予算(安藤先生)

以上の議案は、すべて出席者の承認を得られ、議決された。

総 会 後 講 演 会

日 時：令和6年4月24日（水） 演 題
小児歯科の最近のトピックスと
九州大学病院における診療体制について
場 所：福岡県歯科医師会館 講 師
4階 第4会議室 九州大学大学院歯学研究院
参加者：26名 小児口腔医学分野 教授
福本 敏 先生

最近の小児歯科分野でのトピックで、主として口腔機能発達不全症とMIH（Molar-Incisor Hypomineralization）について解説いただいた。

特に口腔機能発達不全症は、日本の小児歯科が先導して診断や対処法を示し、保険診療にも取り入れられるなど、注目されている分野である。現状や今後の課題などについて説明いただいた。

また、MIHは皆が認識しつつある疾患だが、その原因の一つと言われるビタミンB欠乏症については、福本教授の研究で明らかになっている。診断や対処法などについて講演いただいた。

また、大学病院は第3次医療機関という立場で、医科的知識が必要な疾患や障害を有する小児が多く、益々、病診連携が重要であることを力説された。



ふたつき子ども歯科 二木 冒人



講演会

日時：令和6年7月10日（水） 演題
小児専門の言語聴覚士と取り組む、
口腔機能発達不全症の話す機能へのアプローチ
場所：福岡県歯科医師会館 講師
4階 第4会議室 医療法人星樹会はち歯科医院院長
参加者：27名 （福岡県大野城市開業）
馬場 聡 先生
医療法人星樹会はち歯科医院所属
主任言語聴覚士
竹山 孝明 先生

馬場先生は以前より、口腔機能発達不全は子どもたちの大きな問題の一つであるという認識のもと、食べる機能・話す機能・その他の機能などの育成と教育に積極的に取り組まれていらっしゃいます。発育に遅れのある小児は近年増加傾向にあり、全国150万人ほどと言われているにもかかわらず、対応は主に、診査や診断行われない福祉的な対応がなされている現状で、このことについて先生は、医療としての対応が必要である場合が多いと指摘されています。

はち歯科医院では、「話す機能」については、小児専門の言語聴覚士を採用し、施設基準などのいくつかの壁をクリアして、小児の言語聴覚療法を保険で行っていらっしゃいます。そして、「国民の生活の中の医療」と受け取られている全国に77000件ある歯科医院が、「歯科医療の中で小児言語リハビリテーション」を進めていくことが大切であるとを改めて認識されているということです。



具体的には、地域における歯科医院の役割として、歯列や咬合の観察を通して、口腔機能に影響を及ぼす可能性の有無を早期から把握し、構音の一般的な完成期に構音の誤りがみられた場合、言語聴覚士による直接的な介入や専門機関への紹介する取り組みや、構音と併せて言語発達や吃音など、子ども発達について気になる点がないか継続的に観察し、言語聴覚士と連携し対応できるシステム作りが大切であることを強調されていました。

言語聴覚士の竹山先生には、現在保険導入がされている「口腔機能発達不全チェックシート」の項目の「構音に障害がある」の診断のつけ方について詳しく解説していただきました。主な内容をあげますと、

- ・異常構音の診断法について。
- ・構音障害の種類と発現のしくみについての図説。
- ・「言葉を正しく話す力」は「からだづくり」「こころ育て」が土台になっていることを保護者に説明をするために考案なされた「ことばのビルディング」という分かり易いイラスト媒体の活用。
- ・構音の完成時期は個人差あるが5才ぐらいであり、適切時期にトレーニングすることがより良い治療につながること。

分かりやすい説明でたいへん感銘を受けたとともに、言語聴覚士の専門性と貢献には感服しました。

あんどう歯科小児歯科 安藤 匡子



講演会

日時：令和6年10月2日（水） 演題
小児期の気道通気障害が顎咬合発育と
睡眠呼吸状態に及ぼす影響を考える
場所：福岡県歯科医師会館 講師
4階 第4会議室 鹿児島大学名誉教授
参加者：23名 山崎 要一 先生

口腔機能発達不全症の要素のひとつとして、口唇閉鎖不全や口呼吸（いわゆるお口ぽかん）があるが、その要素として鼻疾患のみでなく、気道通気障害に着目した。分析には頭頸部CTデータを活用し、通気障害部位と程度の解析法と評価を試みた。小児期の気道通気障害は睡眠障害も含まれ、顎顔面や歯列咬合の発育に様々な形態的不調和が生じる。

小児歯科が、全身健康にかかわるこのような問題発見の入り口になれば望ましい。

山崎先生は口腔機能発達不全症と、その健康保険収載に尽力され、小児歯科分野からスタートした口腔機能発達不全症の認識が、より重要になるであろうと示唆された。

ふたつき子ども歯科 二木 昌人



講演会

日時：令和7年2月5日（水） 演題 外傷を主訴に来院された方へ対応と管理
場所：福岡県歯科医師会館 4階 第4会議室 講師 元東京医科歯科大学歯学部臨床教授（小児歯科外来）
参加者：26名 宮新 美智世 先生

臨床の現場での外傷の対応について、ケースに分けて説明して頂きました。

まず、外傷の患者さんが来院した場合、明るく声をかけ保護者をねぎらい、患児に対してもストレスをなくし泣かせないことが、治療の効果を左右することを話されました。又、目の溶血斑（パンダの目）や耳介後部皮下出血（パンダの耳）、物が刺さった症例などは、歯科よりも他科の受診が優先することも述べられました。

歯牙周囲組織のダメージも考慮したうえで、露髄の有無での処置方法、整復・固定方法、脱落した歯牙を持参するときの方法についても説明して頂きました。歯冠破折の場合、歯の亀裂をコーティングすることや、受傷直後、直接覆髄するより1週間以内に部分切断法を行った方が成功率が高いことなど、興味のある知見でした。

どの様な外傷でも、施術前の歯垢除去やホームケアの方法伝授など、歯科衛生士と協力して対応することも話されました。

先生の著書『歯の外傷で小児が来院したら』の内容を、短い時間のなかで分かり易く説明して下さる講演となりました。

廣田歯科医院 廣田 和子



役員より一言

28年前に福岡小児歯科集談会に入会し、そのうち20年間は会の活動のお手伝いをさせていただきました。小児歯科を取り巻く環境に合わせて、会へのニーズも変化していき、事業計画をたてるのに様々な経験をさせていただきました。講師の選定や講演会後の講師の先生方との懇親会、入会当初のころの診療所間のスタッフの懇親会の企画、コロナ禍のアンケート調査、等々。活動を通して、普段では出会えないような先生方とお会いできたり、内々の話が聞けたり、私にとってはたいへん有意義な期間となりました。

これまでの会員の皆様のご協力にたいへん感謝しております。



あんどう歯科小児歯科 安藤匡子

福岡小児歯科集談会に入会し、関西の小児歯科を引っ張っているスタディーグループの先生方との交流講演会に参加させていただいたことがとても印象に残っています。関西の先生方のバイタリティーには驚くものがありました。ここ11～12年は、企画等を考える仕事をさせていただきましたが、他の先生方に満足していただける事業・企画を立てることが出来たか疑問ですし、その難しさを痛感しています。

会員の先生方に対するコロナ禍のアンケート調査を基に、小児歯科学会地方会での発表や、小児歯科臨床への投稿など、色々ご指導頂き勉強になりました。

この会がここで一区切りすることはとても残念ですが、小児歯科の先生方とまた研鑽を積む機会があることを期待しております。

ありがとうございました。



廣田歯科医院 廣田 和子